



# 新しい人口ビジョンをみる

何度かこの「わかつく」でも取り上げている「人口ビジョン」。2年前のわかつく第241号で、和歌山都市圏の各自治体では「第1次人口ビジョン」は、ある程度成果を収めたところも目標には届かなかったところもあると総括しました。さて、第2次人口ビジョンはどのような内容になっているのか、探りました。

### 毎年1%人口減少

和歌山県は4月下旬、今年4月1日現在の和歌山県の推計人口が、前年比1・14%減の約90万7千人となりました。ここ数年、和歌山県は毎年約1%の人口減少が続いており、減少をどう食い止めるかが行政の大きな課題となっています。「人口ビジョン」は、国勢調査の結果に基づいて国立社会保障・人口問題研究所(社人研)が行う人口推計をベースとしながら、自治体機能の維持を図るため

に必要となる人口水準の推計と施策の立案を各自自治体に求めるもので、人口増減には、出生・死亡による「自然増減」、転入・転出等による「社会増減」の2つの要素があります。多くの人口ビジョンでは①出生数を上げるために子育てしやすい環境づくりを図ること、②転入を増やし、転出を減らすために、移住・定住のPRや、働きやすい環境づくりを図ること、などが盛り込まれています。こうした取り組みを進めるため

とされており、他の自治体には「まち・ひと・しごと創生総合戦略」も各地域で策定され、各地域が創意工夫を凝らしている、という構図になります。

和歌山都市圏はどうか  
昨年3月に岩出市が発表したことで、和歌山都市圏の5つの市町の第2次人口ビジョンが出そろいました。なお、岩出市は「第3次岩出市長期総合計画」に含める形で発表されているため、この計画の対象期間に合わせた2030年までの目標とされており、他の自治体

の環境づくりが重要だとされています。なお、女性の有業率は20歳代にいったん高まり、30歳代で落ち込み、50歳前後で再び上がる、いわゆる「M字カーブ」の状況が続いていますが、ここ最近、M字の「落ち込み」の幅は緩やかになっており、働く女性の割合が増加傾向にあることがうかがえます。

また、「経済センサス」の調査結果に基づき、産業構造の分析も行われています。それによると和歌山が特に強みを持つ産業は①金業・保険業、②医療・福祉、不動産業、物品賃貸業、③従業員数では、金業・保険業、医療、福祉、運輸業、郵便業、④付加価値額では、医療・福祉、製造業、金業・保険業、となっており、2020年には1・7、2030年には1・5

出生率の目標は、和歌山が「望ましい人口」として挙げている数字は、合計特殊出生率が今後徐々に上昇することを前提としています。和歌山市の計画には具体的な数値の言及はありませんが、この5、6年で、子どもの数が約1割減少しており、妊娠から出産、子育て

### 和歌山市周辺自治体の新しい人口ビジョンとビジョン達成に向けた主な施策

#### 和歌山市「2040年に30万人を下回らない」

[http://www.city.wakayama.wakayama.jp/\\_res/projects/default\\_project/\\_page\\_001/002/797/2vision.pdf](http://www.city.wakayama.wakayama.jp/_res/projects/default_project/_page_001/002/797/2vision.pdf)

	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
社人研推計	355,564	344,850	333,188	320,952	308,663	296,577	284,000	—	258,000
望ましい人口	355,000	346,000	339,000	334,000	330,000	328,000	327,000	327,000	328,000

- 主な施策**
- 女性の人口と合計特殊出生率に相関あり。女性が結婚した後も働ける環境づくり
  - 人口の流出を防ぐために多様な産業の振興
  - 若い世代の市内での就職機会の創出

#### 海南市「現状の行政サービスを維持できる水準をめざす」

<https://www.city.kainan.lg.jp/material/files/group/5/75598268.pdf>

	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
社人研推計	48,765	45,571	42,385	39,178	36,057	33,116	—	—	25,046
めざすべき人口	48,658	45,756	43,108	40,627	38,352	36,381	34,641	33,064	31,643

- 主な施策**
- 進学等で市外に出た若い世代のUターン就職を促進
  - 現在30代・40代の転入増加が傾向のため、居住先として選ばれるまちをめざす
  - 仕事と子育ての両立支援の取り組み

#### 紀の川市「社会増減の均衡を図る」

<https://www.city.kinokawa.lg.jp/kikaku/pdf/R0203jinnkoubijyon.pdf>

	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
社人研推計	59,166	55,593	51,952	48,188	44,323	40,507	36,827	33,251	29,846
めざすべき人口	60,706	58,798	56,729	54,511	52,163	49,942	47,749	45,574	43,494

- 主な施策**
- 誰もが住みたいと思えるまちづくり
  - 地域資源を生かした交流人口の増加
  - 定住のための住環境整備
  - 移住・定住のための情報発信の強化
  - 子育てをしながら働きやすい環境づくり

#### 岩出市「2030年まで現状維持をめざす」

<https://www.city.iwade.lg.jp/koushitsu/sougoukeikaku/dai3jichokisougoukeikaku.html>

	2020年	2025年	2030年
社人研推計	54,072	53,971	53,471
目標人口	53,918	53,864	53,813

- 主な施策**
- 都市・生活基盤の充実
  - 住んでみたい、住んでよかったと思えるまちづくり
  - 将来の人口減少の抑制対策に取り組む

#### 紀美野町「2040年に6000人を維持」

[https://www.town.kimino.wakayama.jp/material/files/group/4/kimino\\_jinkou\\_vision.pdf](https://www.town.kimino.wakayama.jp/material/files/group/4/kimino_jinkou_vision.pdf)

	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
社人研推計	8,090	7,059	6,126	5,247	4,408	3,658	3,012	2,475	2,013
目標人口	8,148	7,503	6,974	6,492	6,020	5,601	5,286	5,051	4,870

- 主な施策**
- 合計特殊出生率を2040年までに1.8に
  - 毎年一定の転入受入・転出抑制を図る

「社人研推計」は国立社会保障・人口問題研究所が2018年に発表した人口推計。この推計では市区町村ごと・5年ごとに2045年までの人口推計が公開されているため、2045年までは社人研推計の数値をそのまま記載しています。

2050年以降についてはこの社人研推計の前提のまま推移したときの推計人口を公表している市町村と、一部のみ公表している市町村があります。この表では、人口を公表していない部分は「—」としています。

なお、和歌山市は2050年以降の推計人口については1000人未満を丸めて表記しています。また推計時の端数処理の関係で、社人研が公表している数値とこの表の数値が異なる場合があります。

### 和歌山NPO・ボランティア推進協議会だより

**講座 | まちなか百姓養成塾**  
日時 7月20日(水) 18:30～20:00  
場所 和歌山地域フロンティアセンター会議室(フォルテワジマ6階)  
内容 有機農法による夏秋野菜の栽培について

参加費 500円(資料代)  
定員 20人(前日までに申込必要 当日定員に余裕があれば参加可)  
主催 わかやまイネ!プロジェクト・まちなか百姓養成塾チーム(090-1156-6799, waiprojimu@gmail.com・池田さん)  
以降も奇数月第3木曜日に開催。次回は9月21日の同時刻。

地域の活力を維持するには、街に一定の人口が集積することも重要なポイントの一つ。こうした自治体の「人口ビジョン」が今後どのように機能していくのか、各自治体の動きを今後も追いかけていきたいと思います。(志場久起)